

# JSP

ニュース

第65期 報告書 2022年4月1日～2023年3月31日

2023年 夏

# No.94

証券コード：7942





代表取締役社長 大久保 知彦

## JSPニュース No.94 Contents

社長メッセージ	1
連結財務ハイライト/ 連結セグメント情報	3
会社情報	5
配当実績	6

## 1 はじめに

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

日本でも新型コロナウイルスの扱いが感染症法の2類から5類へと変更され、海外からの訪問者がずいぶん増え、国内のイベントや旅行、人のリアルな流れも活発となり、非常に明るさが増してきています。一方で事業を取り巻く環境は、ロシアによるウクライナへの侵攻は未だに解決の見通しが立っておらず、インフレの進行など、今後も決して予断を許さない状況にあります。電力などユーティリティコストが高値に推移し、事業活動に重くのしかかっていますし、また多くの地域で労働力の逼迫も見られます。それでも、資源エネルギー価格は一定のボックス圏内に落ち着いているようですし、一昨年から続いてきた原料価格の上昇圧力も多少和らぎました。このように、明るさと厳しさが混在しているのが現状ですが、この数年間、感染症対策という思いもよらなかった状況に翻弄され続けてきたことを考えると、リアルな動きが戻ってきた分、明るさが勝っていると感じています。まだまだこの先の事業環境には、不透明感が残ることは否めませんが、これまでも様々な課題と向き合ってきており、それはこれからも変わりません。JSPグループは、引き続き足腰を強化して「Deliver with WOW!」の経営方針の実行に努めてまいります。

## 2 2022年度の振り返り

2022年度の当社グループの業績は、売上高は131,714百万円となり前期比15.4%増でしたが、営業利益は2,956百万円で前期比35.6%減、経常利益は3,363百万円(同30.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,531百万円(同12.5%減)となりました。

年度の前半は新型コロナウイルス感染症対策の影響が大きく、中国では厳しいロックダウンが行われた時期もありました。半導体など部品供給不足や物流遅延などが続き、資源価格はロシアのウクライナ侵攻を受け高騰し、原料価格が高値で推移したことに加え、ユーティリティコストの上昇という形で経済に

重くのしかかりました。年度の後半には中国の感染症対策も緩和され、世界各地で社会経済活動の正常化が進み、個人消費や設備投資などに持ち直しの傾向もみられましたが、一方でインフレの進行、人件費の上昇が起こり、地域による金融政策に差も生じたことから為替が大きく変動しました。通年を通してみると、やはり厳しさが勝る一年でした。この間、当社グループは製品価格改定を進めた結果、売上高は前期を上回ったものの、営業利益は原材料価格やユーティリティコスト、人件費などの急速な上昇をカバーしきれず前年を下回りました。

### 3 2023年度の見通し

2023年度もロシアのウクライナ侵攻によるリスクは依然存在していますが、新型コロナウイルス対策に関連した影響は解消され、総じて回復基調で推移すると予想しています。エネルギー市場は高水準ながら相対的に安定感を見せているものの、物価上昇圧力の基調は根強いほか、多くの国・地域で労働市場が逼迫しています。今期も当社グループは、ユーティリティコスト・物流コストの上昇に対し、コスト削減や販売価格の改定に努め、収益力の向上を目指すとともに、サステナビリティ経営における課題に取り組んでまいります。

販売面では、グループ全体の数量がコロナ禍前を越え増加していくことが見込まれています。自動車関連は、半導体などの部品供給不足解消による生産台数回復に加え、車一台あたりの当社製品使用量も着実に増加しています。当社の発泡ポリプロピレン(EPP)は、BEVの普及に伴い車体軽量化が求められることから車一台あたりの使用量が増えています。加えて、バッテリーなどのサプライチェーンの拡大は、包材分野での当社製品の市場拡大につながります。フラットパネルディスプレイやそのサプライチェーンで使用される包材は、未だ他素材からの切り替え余地もあり、新規採用獲得を進めていきます。国内市場においては、インバウンド効果も期待される中、食品容器の環境対応型製品の拡充や、断熱材の高断熱化と割付断裁の広がりによって事業基盤を確たるものとしてまいります。

これらの見通しのもと、連結売上高は135,000百万円(対前年比2.5%増)、営業利益は4,800百万円(同62.4%増)、経

常利益は5,000百万円(同48.7%増)、親会社に帰属する当期純利益は3,400百万円(同34.3%増)を見込んでおります。

### 4 株主・投資家の皆様へ

コロナ禍という一つの山は乗り越えましたが、その後遺症とも言える社会、経済情勢の不透明感は地政学的なリスクも含め、益々増していると言えます。当社の発泡樹脂製品は、省エネ、省資源への効果も期待され、これからも使用案件は増えていくと考えますが、景気動向、消費動向に影響される部分も多く、今後も情勢の変化には注意を払って行かなければなりません。

2023年度は中期経営計画「Change for Growth」の最終年となります。新型コロナウイルスの影響の大きさや急激な資源高騰や紛争など、中計策定時には予測できなかった事業変化もあり、非常に厳しい結果となっています。それでも、販売数量の回復は着実に進み、これまで積み上げてきた社会のニーズに則した製品開発、技術開発の効果も上がってきています。そもそも発泡樹脂製品は、通常の樹脂加工品に対し、より少ない樹脂量で同じ体積を実現するものであり、同時に発泡による保冷断熱、防音、軽量化などの機能や効能を持っています。お客様には、これらの基本性能に当社のオリジナリティを加え、例えばリサイクル原料を使用したARPRO RE(EPP)、GHG削減に有効な製品であるピーブロックLC(EPP)、高断熱性能を有したミラフォームΛ(押出法ポリスチレンフォーム)などといった製品群にも高い評価を頂いています。まさに発泡樹脂製品は時代に即したものと確信しています。そして、南北アメリカ、欧州、東南アジアから中国、そして韓国と台湾に日本を加えた極東地域に至るまで、全世界を市場として生産拠点を置き事業を展開しています。私たちは、当社の製品について、もっと魅力を磨き用途を拡大させていくこと、もっと広い地域に紹介して利用機会を増やしていくこと、それが持続可能な豊かな社会の実現への貢献となると確信しています。引き続き、株主の皆様からの、ご支援を心よりお願い申し上げます。

2023年6月

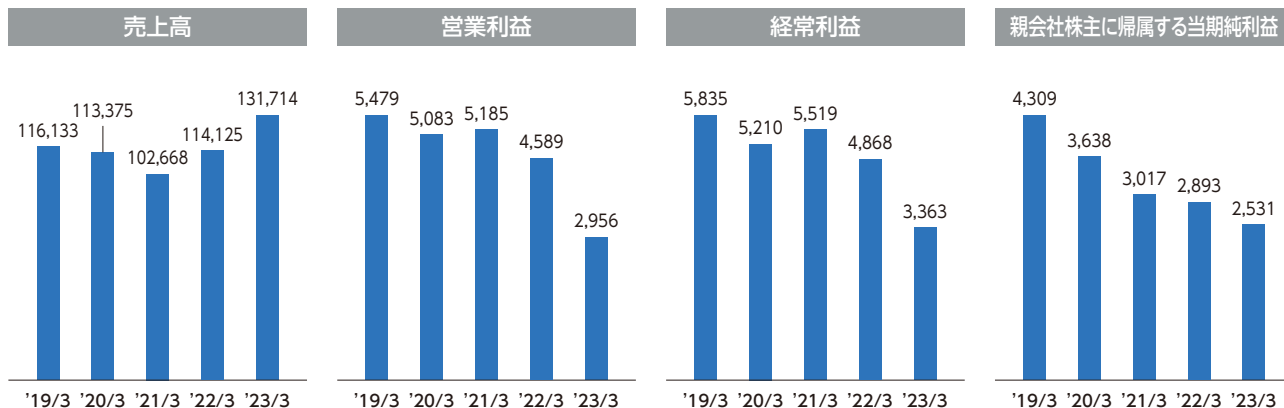
大久保 知彦



# 連結財務ハイライト

## Consolidated Financial Highlights

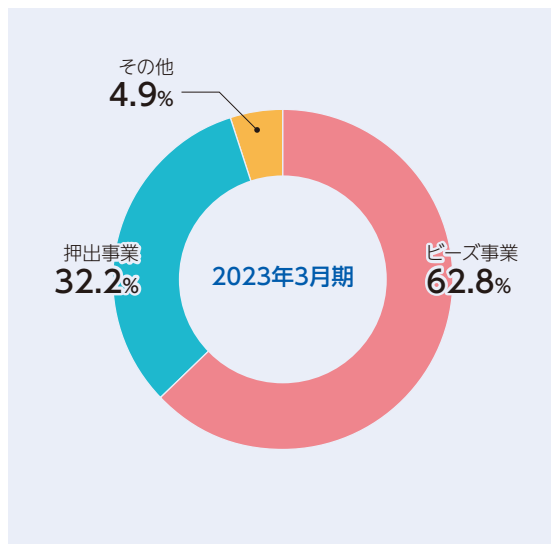
(単位:百万円)



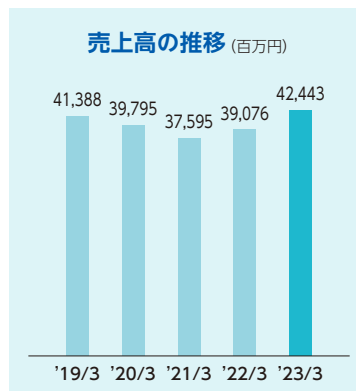
# 連結セグメント情報

## Consolidated Segment Information

### 事業別売上高構成比



### 押出事業



ポリスチレンペーパー(食品容器)



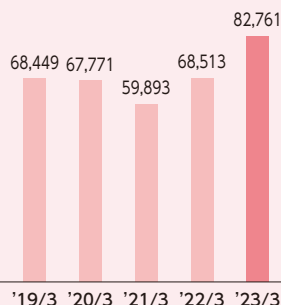
ミラフォーム(断熱材)

「スチレンペーパー」を中心とした生活資材製品は、売上が増加しました。「ミラマット®」を中心とした産業資材製品の売上は減少しました。「ミラフォーム®」を中心とした建築土木資材製品の販売は前期並みでしたが、製品価格改定の影響で売上は増加しました。

(単位:百万円)	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3
売上高	116,133	113,375	102,668	114,125	131,714
営業利益	5,479	5,083	5,185	4,589	2,956
経常利益	5,835	5,210	5,519	4,868	3,363
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,309	3,638	3,017	2,893	2,531
純資産	84,141	84,646	85,561	90,231	96,123
総資産	129,229	128,445	129,053	134,527	144,528

## ビーズ事業

売上高の推移 (百万円)



ビーブロック(自動車部材)

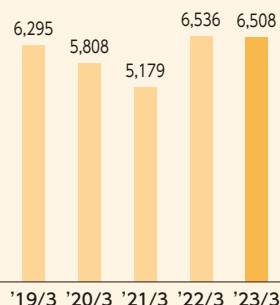


スチロダイア(魚箱・野菜箱)

「ビーブロック®」を中心とした高機能材製品は、販売及び売上も緩やかに増加しました。「スチロダイア®」を中心とした発泡性ビーズ製品は、販売は減少しましたが製品価格改定の効果で売上は増加しました。

## その他

売上高の推移 (百万円)



一般包材は、国内では、自動車部品輸送関連等の販売が回復したことなどから売上は増加しました。中国では、各種部品関連の需要の影響により売上は減少しました。

### 会社概要

**商号** 株式会社JSP  
**所在地** 本社 東京都千代田区丸の内三丁目4番2号  
**事業内容** 発泡プラスチック、  
 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、  
 土木・建築工事の設計・請負および管理  
**設立** 1962年(昭和37年)1月  
**資本金** 10,128百万円  
**決算期** 3月  
**従業員数** 760名(出向者除く)  
 連結2,966名(国内:1,335名、海外:1,631名)  
**事業所他** 5営業所、1出張所、11工場、2研究所  
**主要関係会社** 国内9社、海外27社

### 大株主

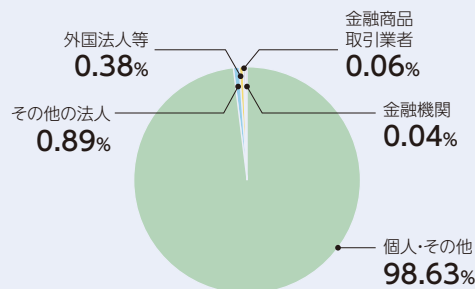
株主名	株数(千株)
三菱瓦斯化学株式会社	16,020
JSP取引先持株会	1,315
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,204
MSIP CLIENT SECURITIES	647
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	401
JSP従業員持株会	318
SMBCE日興証券株式会社	254
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	250
日本生命保険相互会社	241
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	240

当社は自己株式1,605千株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

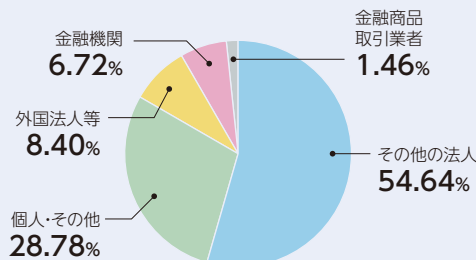
### 株式の状況

**発行可能株式総数** 46,000,000株  
**発行済株式の総数** 31,413,473株  
**株主総数** 40,978名

#### ● 株主数別分布状況 ●



#### ● 株式数別分布状況 ●



### 配当実績

#### 株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な政策として位置付けております。利益の配分につきましては、安定した配当を重視するとともに、各事業年度の連結業績と将来の事業展開に必要な内部留保の充実などを勘案しながら、総合的に決定する方針としております。

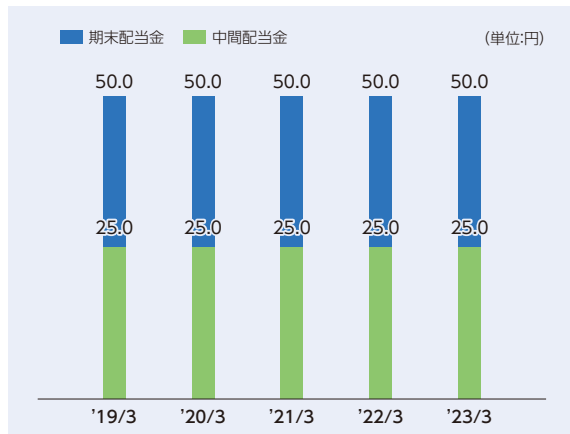
内部留保資金につきましては、財務体質の強化とともに、今後の新製品、新技術への研究開発投資や新規事業展開のための設備投資に充当してまいります。

なお、当社は、会社法第459条第1項に基づく剰余金の配当を取締役会決議により行うことができる旨定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回の取締役会決議による配当を基本的な方針としております。

#### 当期配当金

2023年3月期の1株当たりの配当金は50円、支払い済みの中間配当金を差し引いた期末配当金は1株当たり25円とさせていただきます。

#### 配当実績



### 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel. 0120-232-711 (通話料無料) <a href="https://www.tr.mufg.jp/daikou/">https://www.tr.mufg.jp/daikou/</a> (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う <a href="https://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html">https://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html</a> (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

#### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

# 本社・事業所一覧

Network

本社			TEL
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2(新日石ビル)			03-6212-6300

営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1(サンメモリアビル)	011-231-2681
仙台	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-4-1(青葉通パークビルディング)	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6(桜通大津第一生命ビル)	052-962-3225
大阪	〒541-0053	大阪市中央区本町1-6-16(いちご堺筋本町ビル)	06-6264-7900
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17(五幸ビル)	092-411-6854

出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20(もみじ広島光町ビル)	082-568-0566

工場/センター			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼ミラフォーム	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	(FAX)0289-76-3227
事務管理センター	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
再資源センター	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂638	0289-76-6606
開発センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町6-1	0289-76-3815
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
北九州	〒800-0229	福岡県北九州市小倉南区曾根北町2937-7	093-474-7211
九州	〒861-0111	熊本県熊本市北区植木町宮原553	096-274-7101

研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

## 海外/工場

北米	アジア
JSP International, LLC. (アメリカ)	JSP Foam Products, PTE. LTD. (シンガポール)
JSP International de Mexico, S.A. de C.V. (メキシコ)	JSP Foam Products (Thailand) Co., LTD. (タイ)
南米	JSP Advanced Materials (Wuxi) Co., LTD. (中国)
JSP Brasil Industria de Plasticos LTDA. (ブラジル)	JSP Advanced Materials (Dongguan) Co., LTD. (中国)
欧州	JSP Advanced Materials (Wuhan) Co., LTD. (中国)
JSP International S.A.R.L (フランス)	Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., LTD. (中国)
JSP International s.r.o. (チェコ)	KOSPA Corporation (韓国)
	Taiwan JSP Chemical Co., LTD. (台湾)



発行 株式会社 JSP

東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル  
 広報IR室 TEL.03-6212-6306 FAX.03-6212-6387  
 ホームページ www.co-jsp.co.jp



〔表紙〕ハワイ州  
 ラニカイビーチ  
 Photo by: S.Yoshida